

平成28年度

# 臨床研修プログラム

岩手県立久慈病院

岩手県立久慈病院

# 臨床研修の理念

つねに医学の研鑽  
に勤め医師としての  
人格を涵養し社会に  
適正な医療の提供を  
行う

(平成21年4月1日策定)

岩手県立久慈病院

# 臨床研修基本方針

- 1 全人的医療を重視し、医学の進歩に対応して自らの診療能力を開発できる基礎を養います。
- 2 医師と患者との関係についての理解、医の倫理を体得し医師としての資質の向上に努めます。
- 3 安全、安心な質の高い医療の確保、実践に努めます。

(平成21年4月1日策定)

# 1. はじめに

医師の臨床研修に向けて、当院では社会のニーズに答えるべく、プライマリーケア、全人的医療を重視した研修プログラムを提供する。当院は、厚生労働省の指定する臨床研修指定病院として、医師法第16条の2第1項に規定する医師としての人格を涵養することのできる臨床研修を行う一方、岩手県北唯一の救命救急センターを併設する中核病院として、地域の患者さんの健康を守るために、常に研鑽に努め、医学的にも経済的にも社会的にも適正な医療を提供する。

## 2. 研修の目的

臨床研修の目的は、第1に研修医が適切な指導医のもとで、プライマリ・ケアに対処し得る研修医として必要な知識・技能を修得するとともに、医学の進歩に対応して自らの診療能力を開発できる基礎を養うことにある。第2は、医療における人間関係とくに医師と患者との関係についての理解を深め、併せて医の倫理を体得して医師としての資質の向上を図ることにある。

## 3. プログラムの特徴

- ・救命救急センターを併設しているため、3次救急患者が多く救急医療の研修ができるなどチーム医療の実践に適している。
- ・病院機能評価機構認定病院であるため、医療安全対策、感染対策が充実し、ローテーションの中で研修できる。
- ・豊富な研修実績をもつ指導医が充実しており、また各種シュミレーターがそろっている。
- ・研修医全員がBLS、ACLSのプロバイダーの資格を取得でき、希望によりJATCCを取得できる。
- ・当直研修は3人体制なので、いかなる患者に対しても指導医から教育を受けながらスムーズに研修できる。
- ・選択11ヶ月と長いので、研修医の希望に沿ったプログラムを組むことができる。

## 4. 研修の方及び指導体制

- 1、期間は2年間で、平成28年4月（医師国家試験合格後）から平成30年3月末まででローテイト方式。ローテイトは必須科目（内科、救急部門、地域医療、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科）および選択科目とする。
- 2、一年次は内科系6ヶ月、救急2ヶ月、麻酔科1ヶ月、精神科1ヶ月、産婦人科0.5ヶ月、小児科0.5ヶ月実施する。二年次は地域医療1ヶ月（後記「5」の前段の3診療所及び種市病院のいずれか）、赤十字血液センター（年間数日程度）、選択研修11ヶ月の研修を行う。
- 3、最初の1ヶ月のオリエンテーション後は、将来の診療科あるいは里親（研修期間中に相談相手となる決められた上級医）に属す。内科研修6ヶ月では、消化器・神経内科・循環器内科の3診療科を2ヶ月ずつ行う。救急3ヶ月のうち1ヶ月は麻酔科とBLS（Basic Life Support）を中心とした救急医療の基本を研修し、2ヶ月は外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科のいずれかを選択し日中の救急センター当番を行う。
- 4、特別選択は精神科1ヶ月を院内の外来診療または、北リアス病院・県立一戸病院において精神科の入院診療を中心とした研修を行う。また、周産期を1ヶ月（小児科0.5ヶ月・産婦人科0.5ヶ月）研修する。（特別選択：到達目標達成のため当院が選択必修として選定した科目。下記「6、研修スケジュール」の表中では「特選」と略表記。）
- 5、2年次の地域医療研修1ヶ月では、診療所（洋野町国民健康保険大野診療所又は久慈市国民健康保険山形診療所又は国民健康保険田野畑村診療所）及び種市病院で1ヶ月研修する。

ひとつおりのプログラムを終了した時点で、当院に併設する救命救急センターでACLS (Advanced Cardiac Life Support) やATLS (Advanced Trauma Life Support)、JATEC (Japan Advanced Trauma Evaluation and Care) といった高度の救急医療を学習する。

選択科目研修11ヶ月は、自分の希望する診療科に当ててるが、指導医評価が合格レベルに達していない科目があれば再履修に当てなければならない。2年次選択期間中に、岩手県赤十字血液センターで年間数日程度の研修を行う（保健所は自由選択とする）。なお、到達目標に未達成がある場合は、到達目標達成のために必要な診療科を割り当てることがある。

協力型研修病院における選択研修は4ヶ月までとする。又、連続して2ヶ月を超えないこととする。協力型研修病院での研修前に研修レポートの承認を得ること。

## 6、研修スケジュール

\*ローテーションは、順不同。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	オリエンテーション	内科						麻酔	救急	精神	産婦	小児
2年次	選 択					地域医療	選 択					

\*協力型臨床研修病院（岩手医科大学附属病院・県立中央病院・盛岡赤十字病院・県立胆沢病院・県立磐井病院・県立大船渡病院・県立釜石病院・県立宮古病院・県立二戸病院・県立一戸病院・北上済生会病院・県立中部病院・北リアス病院）

\*協力施設（大野診療所、田野畑診療所、山形診療所、種市病院、久慈保健所、岩手県赤十字血液センター）

7、採用後2週間にわたり研修医オリエンテーション（県合同オリエンテーションを含む。）を行い、指導医や各部門の長が医師として身につけなければならない基本態度、社会・医学的知識について講義をする。同時に2・3年次研修医とともにOJTで研修を行う。

8、原則として1診療科1研修医としMan to Man で密度の濃い指導を行う。

9、当直研修では、内科系、外科系の2名体制で行われますが、1年次は7月から第3当直医として当直見学、研修後、12月から第3当直医（1年次研修医）は、1次、2次救急患者は初診医として診察する。3次救急患者は第1・2当直医とともに診察する。

2年次は（1年次2月～）は、第2当直医（指導医）の待機のもと第1当直医となり全科にわたるプライマリ・ケアと救急医療の実践的習熟に努める。

## 5. 研修内容の評価方法

研修医は、各ローテイト科の終了時に\*EPOCにより各目標の自己評価を記録し、担当指導医は、研修期間中、随時研修医の自己評価結果を点検し、研修医の到達目標の達成を援助しEPOCにより研修医を評価する。担当指導医は、そのローテイト期間のなかで研修医が合格レベルに達するよう努める。2年次6ヶ月のプログラム終了時に研修管理委員長が自己評価、指導医評価を検閲する。この時点で合格レベルに達していない項目があれば再履修通知書を発行して、選択科目の中で再履修させる。2年間の全プログラムを終了した時点で、研修管理委員長がすべて項目の指導医評価が合格レベルに達していることをEPOCにより検閲し、病院長が研修修了認定証を発行する。

\*EPOC : Evaluation system of Postgraduate Clinical Training

## ○ 研修施設の概要等

項 目	内 容
研修施設	<p>1 開設者 岩手県</p> <p>2 病院施設名 岩手県立久慈病院</p> <p>3 所在地及び代表者 〒028-8040 岩手県久慈市旭町10-1 院長 吉田 徹 T E L 0194-53-6131 F A X 0194-52-2601</p> <p>4 許可病床数 340床 一般 275床 回復期リハビリテーション病床 43床 感染症病床 4床 救命救急センター 20床 (ICU・・・・・・6床)</p> <p>5 診療科 (20科) 内科、精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科</p> <p>6 建物 鉄筋コンクリート造5階建 1～2階 外来診療科、薬剤科、放射線科、臨床検査科、栄養管理室、管理棟(事務室等)、救命救急センター病棟 3～5階 病棟(7看護単位(救命救急センター病棟含む))</p> <p>7 研修方式 ・基幹型臨床研修病院 岩手県立久慈病院 (施設番号 030785) 内科、外科、救命救急部門、麻酔救急、小児科、産婦人科、選択科目 ・協力型臨床研修病院 岩手医科大学附属病院 (施設番号 030041) 研修実施責任者 谷田 達男 岩手県立中央病院 (施設番号 030042) 研修実施責任者 高橋 弘明 盛岡赤十字病院 (施設番号 030043) 研修実施責任者 松田 壯正 岩手県立胆沢病院 (施設番号 030044) 研修実施責任者 八木 卓也 岩手県立磐井病院 (施設番号 030780) 研修実施責任者 横沢 聡 岩手県立大船渡病院 (施設番号 030782) 研修実施責任者 小笠原 敏浩 岩手県立釜石病院 (施設番号 030783) 研修実施責任者 吉田 健 岩手県立宮古病院 (施設番号 030784) 研修実施責任者 村上 晶彦 岩手県立二戸病院 (施設番号 030786) 研修実施責任者 松本 隆 岩手県立一戸病院 (施設番号 031191) 研修実施責任者 小井田 潤一 北上済生会病院 (施設番号 031193) 研修実施責任者 佐藤 智彦 社団医療法人祐和会 北リアス病院 (施設番号 033860) 研修実施責任者 長岡 重之 岩手県立中部病院 (施設番号 080001) 研修実施責任者 田村 乾一</p>

項 目	内 容
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修協力施設 地域保健・医療</li> <li>国民健康保険田野畑村診療所 (施設番号 033856) 研修実施責任者 川崎 研一</li> <li>洋野町国民健康保険大野診療所 (施設番号 033857) 研修実施責任者 中村 晴彦</li> <li>洋野町国民健康保険種市病院 (施設番号 033858) 研修実施責任者 磯崎 一太</li> <li>久慈保健所 (施設番号 033859) 研修実施責任者 鈴木 宏俊</li> <li>久慈市国民健康保険山形診療所 (施設番号 033865) 研修実施責任者 大森 協司</li> <li>岩手県赤十字血液センター (施設番号 034040) 研修実施責任者 中居 賢司</li> </ul>
プログラム責任者	岩手県立久慈病院 副院長兼中央手術科長兼感染管理室長 遠 野 千 尋
研修開始時期及び期間	平成28年度プログラム 平成28年4月1日～平成30年3月31日
研修医の処遇	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身分は臨時医務嘱託（常勤）</li> <li>・勤務時間は8時30分から17時15分で1日7時間45分、週38時間45分とする。</li> <li>・給与は、報酬として 1年次 月額 360,000円 2年次 月額 410,000円とする。 手当は超過勤務手当、宿日直手当等</li> <li>・当直は月4回程度</li> <li>・時間外勤務あり</li> <li>・宿舎（1LDK、バス、水洗トイレ、駐車場有） 研修室にデスク、本棚、ロッカー貸与</li> <li>・有給休暇は年次休暇として1年次10日、2年次11日を与える。 また、特別休暇として夏季休暇4日間を与える。 病気休暇は10日の範囲で与える。</li> <li>・全国健康保険協会健康保険、厚生年金、雇用保険に加入する。 労働者災害補償保険や医師賠償責任保険は、病院が加入しその適用を受ける。</li> <li>・健康診断は、年2回行う。</li> <li>・アルバイトは禁止する。</li> <li>・学会等の参加は認めるが、旅費の支給は、1年間140,000円の範囲内とする。</li> </ul>
研修医の募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集人員は8名（原則としてマッチング登録者）</li> <li>・申し込み締切等 平成27年7月下旬</li> <li>・面接 平成27年8月中旬 （岩手県主催の合同面接会） 問い合わせ先 岩手県保健福祉部医師支援推進室 合同面接担当 T E L 019-629-6352</li> <li>・応募必要書類 （履歴書・合同面接会参加申込書・卒業（見込）証明書・成績証明書）</li> <li>・発表 平成27年10月下旬（マッチング協議会からオンラインによる結果通知） *決定者が募集定員に満たないときは、別途面接により決定することがある。</li> </ul>

# 岩手県立久慈病院

## 臨床研修プログラム 目次

ページ

1. 臨床研修オリエンテーション	1・2
2. 臨床研修の到達目標	(3～13)
【一般目標】 G I O	3
I 行動目標 S B O s	3
医療人として必要な基本姿勢・態度	3
(1) 患者－医師関係	3
(2) チーム医療	3
(3) 問題対応能力	3・4
(4) 安全管理	4
(5) 症例呈示	4
(6) 医療の社会性	4
II 経験目標	4
A 経験すべき診察法・検査・手技	4
(1) 医療面接	4
(2) 基本的な身体診察法	4
(3) 基本的な臨床検査	5
(4) 基本的手技	5・6
(5) 基本的治療法	6
(6) 医療記録	6
(7) 診療計画	6・7
B 経験すべき症状・病態・疾患	7
1 頻度の高い症状	7・8
2 緊急を要する症状・病態	8
3 経験が求められる疾患・病態	8
(1) 血液・造血器・リンパ網内系疾患	9
(2) 神経系疾患	9
(3) 皮膚系疾患	9
(4) 運動器（筋骨格）系疾患	9
(5) 循環器系疾患	9
(6) 呼吸器系疾患	9・10
(7) 消化器系疾患	10
(8) 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）疾患	10
(9) 妊娠分娩と生殖器系疾患	10
(10) 内分泌・栄養・代謝系疾患	10
(11) 眼・視覚系疾患	10
(12) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患	10・11



(13) 精神・神経系疾患	11
(14) 感染症	11
(15) 免疫・アレルギー疾患	11
(16) 物理・化学的因子による疾患	11
(17) 小児疾患	11
(18) 加齢と老化	12
C 特定の医療現場の経験	12
(1) 救急医療	12
(2) 予防医療	12
(3) 地域医療	12
(4) 周産・小児・成育医療	13
(5) 精神保健・医療	13
(6) 緩和ケア、終末期医療	13
(7) 地域保健	13

### 3. 各科の研修目標と実施計画(プログラム) (14~40)

1 消化器科	14
2 循環器科	15・16・17
3 呼吸器科	18
4 神経内科	19
5 精神科	20
6 小児科	21・22
7 外科	23・24
8 整形外科	25・26
9 脳神経外科	27・28
10 形成外科	29
11 皮膚科	30
12 泌尿器科	31・32
13 産婦人科	33
14 眼科	34
15 耳鼻咽喉科	35
16 麻酔科	36
17 放射線科	37・38
18 救命救急センター	39・40

### 4-1. 協力型臨床研修病院プログラム (41~44)

1 社団医療法人祐和会北リアス病院研修プログラム	41・42
2 岩手県立二戸病院	42
3 岩手医科大学附属病院	42
4 岩手県立宮古病院	42
5 岩手県立中央病院	42

6	盛岡赤十字病院	43
7	岩手県立胆沢病院	43
8	岩手県立磐井病院	43
9	岩手県立大船渡病院	43
10	岩手県立釜石病院	43
11	北上済生会病院	44
12	岩手県立中部病院	44
13	岩手県立一戸病院	44

#### 4-2. 研修協力施設プログラム

(45～57)

1	岩手県久慈保健所臨床研修実施方針	45・46
2	洋野町国民健康保険種市病院臨床研修プログラム	47
3	洋野町国民健康保険大野診療所臨床研修プログラム	48・49・50
4	久慈市国民健康保険山形診療所臨床研修プログラム	51
5	国民健康保険田野畑村診療所臨床研修プログラム	52・53・54
6	岩手県赤十字血液センター臨床研修プログラム	55・56・57

#### 5. 研修医のローテーション

58

# 1. 臨床研修医オリエンテーション

病院の仕組み・業務内容と医師としての心構えを理解していただき、さらに基本的な技術を修得しスムーズに臨床研修に移行できるよう研修医オリエンテーションを行っています。

下記は平成27年度の予定表ですが28年度もほぼ同様の見込みです。

期間：平成27年4月（下記予定を含む1ヶ月）

対象：1年次研修医及び聴講希望者

主催：岩手県立久慈病院研修管理委員会

## 平成27年度 オリエンテーション予定表

月 日	時 間	講義内容	講 師	会議室
4月2日(木)	9:00 ~ 10:30	臨床研修オリエンテーションの開講にあたって 医療の質、医療事故対策、医師のマナー、 診療録の記載、IC、面接技法、医師会等	宗像副院長(兼医療研修科長)	中
	10:30 ~ 11:00	講話	病院長	中
	11:00 ~ 11:20	給料・手当等について 服務規程と病院施設利用	総務課長	中
	13:55 ~ 14:15	久慈病院の概要と運営について	事務局長	大
	14:15 ~ 14:40	災害時における体制について	総務課長	大
	16:00 ~	対面式		大
4月3日(金)	9:00 ~ 10:00	チーム医療と看護の役割	副総看護師長	中
	10:00 ~ 10:30	CEセンターの概要	臨床工学技士	中
	10:30 ~ 11:00	薬剤科の概要	薬剤科長	中
	11:00 ~ 11:30	放射線検査のオーダーと注意点	診療放射線技師長	中
	13:30 ~ 14:05	院内グループウェア、 インシデントレポートシステムについて	総務課長、上席医療安全管理専門員	大
	14:30 ~ 15:15	臨床検査科の概要	臨床検査技師長	中
	15:15 ~ 16:30	医療安全に対する考え方と取り組み	白石副院長、上席医療安全管理専門員	中
	16:30 ~ 16:45	地域連携室について	三浦副院長	中
4月4日(土)				
4月5日(日)				
4月6日(月)	9:00 ~ 9:30	リハビリテーション科の概要	リハビリテーション技師長	中
	9:30 ~ 10:00	カルテ管理について	医事経営課長	中
	10:00 ~ 10:30	文献検索と図書室の利用	図書室担当	中
	10:30 ~ 11:00	栄養管理室の役割	栄養管理室長	中
	13:00 ~ 14:00	病理診断、剖検、CPC、 緩和医療、麻薬の種類・使い方	遠野副院長	中
	14:15 ~ 15:15	褥瘡対策チームとNST	白石副院長(NST褥瘡対策委員長) 認定看護師(WOC)、管理栄養士	大
	15:15 ~ 16:15	緩和ケアについて	新田看護師	大
4月7日(火)	9:00 ~ 12:00	輸液の基礎と考え方	宗像副院長	中
	13:30 ~ 14:30	輸血・血液製剤の使い方、JATEC、 基本的な外科処置、外傷に対する初期治療	皆川救命救急科長	中
	15:30 ~ 16:15	DPCとコーディングについて	樋澤主事	大
	16:15 ~ 17:15	クリニカルパスについて	看護師長	大
4月8日(水)	11:30 ~ 12:00	研修医のキャリアパスについて	阿部名誉院長	中
4月9日(木)				
4月10日(金)				
4月11日(土)				
4月12日(日)				
岩手県臨床研修医合同オリエンテーション				ホテル 安比 グランド

4月13日(月)	9:00 ~ 12:30	技術研修 - 医療安全(点滴、採血等)	上席医療安全管理専門員	大
	13:30 ~ 16:00	技術研修 - 医療安全(点滴、採血等)		大
	16:00 ~ 16:30	BLS と ACLS	循環器科長	中
4月14日(火)	9:00 ~ 12:30	技術研修 - 医療安全(点滴、採血等)	上席医療安全管理専門員	大
	13:30 ~ 16:00	技術研修 - 医療安全(点滴、採血等)		
	16:00 ~ 17:00	シナップス・ワークステーションの使い方	放射線科長	大

## 2. 臨床研修の到達目標

### 【一般目標】G I O

医師として、医学・医療の社会的ニーズを確認しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、幅広い基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身につける。

### I 行動目標 S B O s

#### 医療人として必要な基本姿勢・態度

##### (1) 患者－医師関係

患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために、

- 1) 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。
- 2) 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる。
- 3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。

##### (2) チーム医療

医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調するために、

- 1) 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。
- 2) 上級および同僚医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
- 3) 同僚及び後輩へ教育的配慮ができる。
- 4) 患者の転入・転出にあたり、情報を交換できる。
- 5) 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。

##### (3) 問題対応能力

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身につけるために、

- 1) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる（EBM=Evidence Based Medicineの実践ができる）。
- 2) 自己評価及び第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる。
- 3) 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動の関心を持つ。
- 4) 自己管理能力を身につけ、生涯にわたり基本的臨床能力の向上に努める。

##### (4) 安全管理

患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身につけ、危機管理に参画するために、

- 1) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。
- 2) 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。

3) 院内感染対策（Standard Precautions を含む。）を理解し、実施できる。

#### (5) 症例呈示

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行うために、

- 1) 症例呈示と討論ができる。
- 2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する。

#### (6) 医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために

- 1) 保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。
- 2) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。
- 3) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。
- 4) 医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。

## II 経験目標

### A 経験すべき診察法・検査・手技

#### (1) 医療面接

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、

- 1) 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。
- 2) 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる。
- 3) 患者・家族への適切な指示、指導ができる。

#### (2) 基本的な身体診察法

症態の正確な把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記載するために、

- 1) 全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む。）ができ、記載できる。
- 2) 頭頸部の診察（眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む。）ができ、記載できる。
- 3) 胸部の診察（乳房の診察を含む。）ができ、記載できる。
- 4) 腹部の診察（直腸診を含む。）ができ、記載できる。
- 5) 泌尿・生殖器の診察（産婦人科的診察を含む。）ができ、記載できる。
- 6) 骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる。
- 7) 神経学的診察ができ、記載できる。
- 8) 小児の診察（生理的所見と病的所見の鑑別を含む。）ができ、記載できる。
- 9) 精神面の診察ができ、記載できる。

### (3) 基本的な臨床検査

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査を、

- ① 自ら実施し、結果を解釈できる。
- ② その他・・・検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

- 1) 一般尿検査 (尿沈渣顕微鏡検査を含む)
- 2) 便検査 (潜血、虫卵)
- 3) 血算・白血球分画
- ④4) 血液型判定、交差適合試験
- ⑤5) 心電図 (12誘導)、負荷心電図
- ⑥6) 動脈血ガス分析
  - 7) 血液生化学的検査
    - ・簡易検査 (血糖、電解質、尿素窒素など)
  - 8) 血液免疫血清学的検査 (免疫細胞検査、アレルギー検査を含む)
  - 9) 細菌学的検査・薬剤感受性検査
    - ・検体の採取 (痰・尿・血液など)
    - ・簡単な細菌学的検査 (グラム染色など)
- 10) 肺機能検査
  - ・スパイロメトリー
- 11) 髄液検査
- 12) 細胞診・病理組織検査
- 13) 内視鏡検査
- ①4) 超音波検査
- 15) 単純X線検査
- 16) 造影X線検査
- 17) X線CT検査
- 18) MR I 検査
- 19) 核医学検査
- 20) 神経生理学的検査 (脳波・筋電図など)

必修項目 下線の検査について経験があること

\*「経験」とは受け持ち患者の検査として診療に活用すること

①の検査で自ら実施する部分については、受け持ち症例でなくてもよい

### (4) 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施するために、

- 1) 気道確保を実施できる。
- 2) 人工呼吸を実施できる。(バックマスクによる徒手換気を含む。)
- 3) 心マッサージを実施できる。
- 4) 圧迫止血法を実施できる。
- 5) 包帯法を実施できる。
- 6) 注射法 (皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保) を実施できる。

- 7) 採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。
- 8) 穿刺法（腰椎）を実施できる。
- 9) 穿刺法（胸腔、腹腔）を実施できる。
- 10) 導尿法を実施できる。
- 11) ドレーン・チューブ類の管理ができる。
- 12) 胃管の挿入と管理ができる。
- 13) 局所麻酔法を実施できる。
- 14) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。
- 15) 簡単な切開・排膿を実施できる。
- 16) 皮膚縫合法を実施できる。
- 17) 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。
- 18) 気管挿管を実施できる。
- 19) 除細動を実施できる。

必修科目	<u>下線の手技</u> を自ら行った経験があること
------	----------------------------

#### (5) 基本的治療法

基本的治療法の適応を決定し、適切に実施するために、

- 1) 療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む。）ができる。
- 2) 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む。）ができる。
- 3) 基本的な輸液ができる。
- 4) 輸血（成分輸血を含む。）による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる。

#### (6) 医療記録

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、

- 1) 診療録（退院時サマリーを含む）をPOS（Problem Oriented System）に従って記載し管理できる。
- 2) 処方箋、指示箋を作成し、管理できる。
- 3) 診断書、死亡診断書、死体検案書その他の証明書を作成し、管理できる。
- 4) CPC（臨床病理検討会）レポートを作成し、症例呈示できる。
- 5) 紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。

#### (7) 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために、

必修科目

- 1) 診療録の作成
- 2) 処方箋・指示書の作成
- 3) 診断書の作成
- 4) 死亡診断書の作成
- 5) CPCレポート（※）の作成、症例呈示
- 6) 紹介状、返信の作成

上記1)～6)を自ら行った経験があること（※CPCレポートとは、剖検報告のこと）



- 1) 診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む。）を作成できる。
- 2) 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。
- 3) 入退院の適応を判断できる（デイサージャリー症例を含む）。
- 4) QOL（Quality of Life）を考慮にいたれた総合的な管理計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む。）へ参画する。

## B 経験すべき症状・病態・疾患

研修の最大の目的は、患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期治療を的確に行う能力を獲得することにある。

### 1 頻度の高い症状

必須項目	<u>下線の症状</u> を経験し、レポートを提出する *「経験」とは、自ら診療し、鑑別診断を行うこと
------	--

- 1) 全身倦怠感
- 2) 不眠
- 3) 食欲不振
- 4) 体重減少、体重増加
- 5) 浮腫
- 6) リンパ節腫脹
- 7) 発疹
- 8) 黄疸
- 9) 発熱
- 10) 頭痛
- 11) めまい
- 12) 失神
- 13) けいれん発作
- 14) 視力障害、視野狭窄
- 15) 結膜の充血
- 16) 聴覚障害
- 17) 鼻出血
- 18) 嘔声
- 19) 胸痛
- 20) 動悸
- 21) 呼吸困難
- 22) 咳・痰
- 23) 嘔気・嘔吐
- 24) 胸やけ
- 25) 嚥下困難
- 26) 腹痛
- 27) 便通異常（下痢、便秘）

- 28) 腰痛
- 29) 関節痛
- 30) 歩行障害
- 31) 四肢のしびれ
- 32) 血尿
- 33) 排尿障害（尿失禁・排尿困難）
- 34) 尿量異常
- 35) 不安・抑うつ

## 2 緊急を要する症状・病態

必須項目 下線の病態を経験すること  
 ※「経験」とは、初期治療に参加すること

- 1) 心肺停止
- 2) ショック
- 3) 意識障害
- 4) 脳血管障害
- 5) 急性呼吸不全
- 6) 急性心不全
- 7) 急性冠症候群
- 8) 急性腹症
- 9) 急性消化管出血
- 10) 急性腎不全
- 11) 流・早産及び満期産
- 12) 急性感染症
- 13) 外傷
- 14) 急性中毒
- 15) 誤飲、誤嚥
- 16) 熱傷
- 17) 精神科領域の救急

## 3 経験が求められる疾患・病態

必須項目

1. ①疾患については入院患者を受け持ち、診断、検査、治療方針について症例レポートを提出すること
2. ②疾患については、外来診療又は受け持ち入院患者（合併症含む。）で自ら経験すること
3. 外科症例（手術を含む。）を1例以上受け持ち、診断、検査、術後管理等について症例レポートを提出すること

※全疾患（88項目）のうち70%以上を経験することが望ましい。

- (1) 血液・造血器・リンパ網内系疾患
  - Ⓑ① 貧血（鉄欠乏貧血、二次性貧血）
    - ② 白血病
    - ③ 悪性リンパ腫
    - ④ 出血傾向・紫斑病（播種性血管内凝固症候群：DIC）
  
- (2) 神経系疾患
  - Ⓐ① 脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）
    - ② 認知症疾患
    - ③ 脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫）
    - ④ 変性疾患（パーキンソン病等）
    - ⑤ 脳炎・髄膜炎
  
- (3) 皮膚系疾患
  - Ⓑ① 湿疹・皮膚炎群（接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎）
  - Ⓑ② 蕁麻疹
    - ③ 薬疹
  - Ⓑ④ 皮膚感染症
  
- (4) 運動器（筋骨格）系疾患
  - Ⓑ① 骨折
  - Ⓑ② 関節・靭帯の損傷及び障害
  - Ⓑ③ 骨粗鬆症
  - Ⓑ④ 脊柱障害（腰椎椎間板ヘルニア）
  
- (5) 循環器系疾患
  - Ⓐ① 心不全
  - Ⓑ② 狭心症、心筋梗塞
    - ③ 心筋症
  - Ⓑ④ 不整脈（主要な頻脈性、除脈性不整脈）
    - ⑤ 弁膜症（僧帽弁膜症、大動脈弁膜症）
  - Ⓑ⑥ 動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤）
    - ⑦ 静脈・リンパ管疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫）
  - Ⓐ⑧ 高血圧症（本態性、二次性高血圧症）
  
- (6) 呼吸器疾患
  - Ⓑ① 呼吸不全
  - Ⓐ② 呼吸器感染症（急性上気動炎、気管支炎、肺炎）
  - Ⓑ③ 閉塞性・拘束性肺疾患（気管支喘息、気管支拡張症）
    - ④ 肺循環障害（肺梗塞・肺梗塞）
    - ⑤ 異常呼吸（過換気症候群）

⑥ 胸膜、縦隔、横隔膜疾患（自然気胸、胸膜炎）

⑦ 肺癌

(7) 消化器系疾患

Ⓐ① 食道・胃・十二指腸疾患（食道静脈瘤、胃癌、消化器潰瘍、胃・十二指腸炎）

Ⓑ② 小腸・大腸疾患（イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻）

③ 胆嚢・胆管疾患（胆石、胆嚢炎、胆管炎）

Ⓑ④ 肝疾患（ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害）

⑤ 膵臓疾患（急性・慢性膵炎）

Ⓑ⑥ 横隔膜・腹壁・腹膜（腹膜炎、急性腹症、ヘルニア）

(8) 腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）疾患

Ⓐ① 腎不全（急性・慢性腎不全、透析）

② 原発性糸球体疾患（急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群）

③ 全身性疾患による腎障害（糖尿病性腎症）

Ⓑ④ 泌尿器科的腎・尿路疾患（尿路結石、尿路感染症）

(9) 妊娠分娩と生殖器系疾患

Ⓑ① 妊娠分娩（正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥）

② 女性生殖器及びその関連疾患（月経異常（無月経を含む。）、不正性器出血、更年期障害、外陰・膣・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍、乳腺腫瘍）

Ⓑ③ 男性生殖器疾患（前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍）

(10) 内分泌・栄養・代謝系疾患

① 視床下部・下垂体疾患（下垂体機能障害）

② 甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症）

③ 副腎不全

Ⓐ④ 糖代謝異常（糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖）

Ⓑ⑤ 高脂血症

⑥ 蛋白及び核酸代謝異常（高尿酸血症）

(11) 眼・視覚系疾患

Ⓑ① 屈折異常（近視・遠視・乱視）

Ⓑ② 角結膜炎

Ⓑ③ 白内障

Ⓑ④ 緑内障

⑤ 糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化

(12) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患

Ⓑ① 中耳炎

- ② 急性・慢性副鼻腔炎
- ㊦③ アレルギー性鼻炎
- ④ 扁桃の急性・慢性炎症性疾患
- ⑤ 外耳道・鼻腔・咽頭・食道の代表的な異物

(13) 精神・神経系疾患

- ① 症状精神病
- ㊦② 認知症（血管性認知症を含む。）
- ③ アルコール依存症
- ㊦④ 気分障害（うつ病、躁うつ病を含む。）
- ㊦⑤ 統合失調症（精神分裂病）
- ⑥ 不安障害（パニック症候群）
- ㊦⑦ 身体表現性障害、ストレス関連障害

(14) 感染症

- ㊦① ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎）
- ㊦② 細菌感染症（ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア）
- ㊦③ 結核
- ④ 真菌感染症（カンジタ症）
- ⑤ 性感染症
- ⑥ 寄生虫疾患

(15) 免疫・アレルギー疾患

- ① 全身性エリテマトーデスとその合併症
- ㊦② 慢性関節リウマチ
- ㊦③ アレルギー疾患

(16) 物理・化学的因子による疾患

- ① 中毒（アルコール、薬物）
- ② アナフィラキシー
- ③ 環境要因による疾患（熱中症、寒冷による障害）
- ㊦④ 熱傷

(17) 小児疾患

- ㊦① 小児けいれん性疾患
- ㊦② 小児ウイルス感染症（麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ）
- ③ 小児細菌感染症
- ㊦④ 小児喘息
- ⑤ 先天性心疾患

(18) 加齢と老化

⑧① 高齢者の栄養摂取障害

⑧② 老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥瘡）

C 特定の医療現場の経験

必須項目にある現場の経験とは、各現場における到達目標の項目のうち一つ以上経験すること。

(1) 救急医療

生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応をするために、

- 1) バイタルサインの把握ができる。
- 2) 重症度及び緊急度の把握ができる。
- 3) ショックの診断と治療ができる。
- 4) 二次救命処置（ACLS=Advanced Cardiovascular Life Support、呼吸・循環管理を含む。）ができ、一次救命処置（BLS=Basic Life Support。）を指導できる。  
 ※ACLSは、バッグ・バルブ・マスク等を使う心肺蘇生法や除細動、気管挿管、薬剤投与等の一定のガイドラインに基づく救命処置を含み、BLSには、気道確保、心臓マッサージ、人口呼吸等機器を使用しない処置が含まれる。
- 5) 頻度の高い救急疾患の初期治療ができる。
- 6) 専門医への適切なコンサルテーションができる。
- 7) 大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。

必須項目	救急医療の現場を経験すること
------	----------------

(2) 予防医療

予防医療の理念を理解し、地域や臨床の場での実践に参画するために、

- 1) 食事・運動・休養・飲酒・禁煙指導とストレスマネジメントができる。
- 2) 性感染症予防、家族計画を指導できる。
- 3) 地域・産業・学校保健事業に参画できる。
- 4) 予防接種を実施できる。

必須項目	予防医療の現場を経験すること
------	----------------

(3) 地域医療

地域医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

- 1) 患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む）について理解し、実践する。
- 2) 診療所の役割（病診連携への理解を含む。）について理解し、実践する。
- 3) へき地・離島医療について理解し、実践する。

必須項目	へき地・離島診療所、中小病院・診療所等の地域医療の現場を経験すること
------	------------------------------------

(4) 周産・小児・成育医療

周産・小児・成育医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

- 1) 周産期や小児の各発達段階に応じて適切な医療が提供できる。
- 2) 周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。
- 3) 虐待について説明ができる。
- 4) 学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。
- 5) 母子健康手帳を理解し活用できる。

必須項目	周産・小児・成育医療の現場を経験すること
------	----------------------

(5) 精神保健・医療

精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

- 1) 精神症状の捉え方の基本を身につける。
- 2) 精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。
- 3) デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。

必須項目	精神保健福祉センター、精神科病院等の精神保健・医療の現場を経験すること
------	-------------------------------------

(6) 緩和ケア、終末期医療

緩和ケアや終末期医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

- 1) 心理社会的側面への配慮ができる。
- 2) 治療の初期段階から基本的な緩和ケア（WHO方式がん疼痛治療法を含む。）ができる。
- 3) 告知をめぐる諸問題への配慮ができる。
- 4) 死生観・宗教観などへの配慮ができる。

必須項目	臨終の立ち会いを経験すること
------	----------------

(7) 地域保健

地域保健を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、保健所、介護老人保健施設、社会福祉施設、赤十字社血液センター、各種検診・健診の実施施設等の地域保健の現場において、

- 1) 保健所の役割（地域保健・健康増進への理解を含む。）について理解し、実践する。
- 2) 社会福祉施設等の役割について理解し、実践する。







### 3. 各科の研修目標と実施計画(プログラム)

#### 消化器科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
<b>消化器科の研修目標</b>			
1. 消化器疾患の検査の基本的技術を習得し、その検査所見の読影能力を身につける。			
2. 患者の検査および治療計画を立てることができる。			
3. 消化器疾患の典型例を診断することができ、また、外科的適応の有無を判断できる。			
4. 癌末期患者の管理と治療について理解できる。			
5. 糖尿病患者の検査や治療について理解し、治療計画を立てることができる。			
6. 高脂血症について理解し、治療できる。			
<b>消化器科研修到達</b>			
1. 基本的手技の修得			
a. 腹部の理学的所見がとれる。			
b. 腹部単純撮影写真が読影できる。			
c. 胃、腸X線透視検査ができる。また、代表的疾患の読影ができる。			
d. 胃内視鏡検査で内視鏡を胃まで挿入できる。また、代表的疾患の写真読影ができる。			
e. 緊急内視鏡、生検、止血、大腸内視鏡、ポリペクトミー、ERCP、PTCD、食道静脈瘤硬化療法、腹部血管造影、肝動脈塞栓術の助手または見学をする。			
f. 腹部の超音波診断が一通りできる。			
g. 腹水穿刺ができる。			
2. 治療上の基本的なものの修得			
a. 検査計画、治療計画をつくることができる。			
b. 消化性潰瘍の治療と生活指導ができる。			
c. 下痢、便秘の治療ができる。			
d. 吐血、下血の初期治療ができる。			
e. 胆石症、胆嚢炎の治療ができる。			
f. 肝炎、肝硬変の治療と生活指導ができる。			
g. 膵炎の治療ができる。			
h. 外科的適応が理解できる。			
i. 急性腹症の対応ができる。			
j. 癌末期患者の管理ができる。			
k. 糖尿病の食事療法、経口糖尿病薬、インスリンを利用した治療ができる。			
l. 糖尿病昏睡、低血糖に対する対処ができる。			
m. 糖尿病合併症を理解している。			
n. 高脂血症について理解し治療できる。			

循環器科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
1) 患者、家族のニーズを身体、心理、社会的側面から把握できる		
2) 医師、患者、家族がともに納得できる医療を行う為のインフォームドコンセントができる		
3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる		
4) 指導医に適切なタイミングでコンサルテーションができる		
5) 同僚研修医や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる		
6) 臨床上の疑問点を解決するための情報収集と評価ができる		
7) 各疾患の診断および治療ガイドラインを理解し、患者さんへの適応を判断できる		
8) 医療現場での安全確認、清潔確認を理解し実践できる		
9) 患者さんの病歴の聴取と記録ができる		
<b>身体診察および管理</b>		
1) 全身の観察（視診、聴診、触診）ができ、記載できる		
2) 意識、呼吸状態、循環徴候を判断、評価し的確な処置と検査ができる		
3) バイタルサインの変化に早急に対応するための注意義務（モニタリング）を実践できる		
4) 重症疾患でおこりうるバイタルサインの変化を予測できる		
5) 各疾患の急性期におこりうる合併症を理解し説明できる		
6) 各疾患の慢性期におこりうる合併症を理解し説明できる		
7) 疾患により患者さんにおそいかかる精神的不安や苦痛を受け入れ、対応できる		
8) 心血管疾患のリスクとなる生活習慣病を列挙できる		
9) 生活習慣病の運動、食事、薬物療法の方法を理解できる		
<b>心肺停止について</b>		
①心臓マッサージ、人工呼吸、電気的除細動の心肺蘇生術の基本を経験する		
②心肺蘇生ガイドラインを熟知し、正しい蘇生法をおこなうことができる		
③心肺蘇生に必要な薬物の用法や禁忌事項を理解する		
<b>ショックについて</b>		
①心原性ショックを理解し、行うべき治療と検査を列挙できる		
<b>意識障害について</b>		
①意識障害（失神を含む）を生じる循環器疾患を列挙でき、検査、治療方法を理解する		
<b>心不全について</b>		
①心不全の病態と病因を理解できる		
②心不全患者に行う検査を把握し、治療方針を立てることができる		

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
③心不全患者の合併症とその予防方法を説明できる		
④心不全の再発予防のための生活指導ができる		
<b>狭心症、心筋梗塞、急性冠症候群について</b>		
①診断と治療の方法を理解できる		
②起こりうる合併症を列挙し説明できる		
③急性期に必要なモニタリングの実際とバイタルサインの把握ができる		
④慢性期の治療やリハビリテーションの方法を理解できる		
⑤退院時指導の要点が理解できる		
<b>心筋症について</b>		
①診断と治療の方法を理解できる		
②起こりうる合併症を列挙し説明できる		
<b>不整脈（主な頻脈性、除脈性不整脈）</b>		
①診断と治療の方法を理解できる		
②起こりうる合併症を列挙し説明できる		
③急性期に必要なモニタリングの実際とバイタルサインの把握ができる		
④ペースメーカー治療の適応を説明できる。手術治療に参加する		
⑤一時的ペーシングの方法と実際を理解し、指導医と共に実践できる		
⑥電氣的除細動とカルディオバージョンを区別し実践できる		
<b>弁膜症について</b>		
①診断と治療（内科的、外科的）の方法を理解できる		
②診断および治療方針決定のための検査を理解し、治療方針を立案できる		
③弁膜症の合併症を理解できる		
<b>動脈疾患（動脈硬化症、大静脈解離等）について</b>		
①診断と治療（内科的、外科的）の方法を理解できる		
②診断および治療方針決定のための検査を理解し、治療方針を立案できる		
<b>静脈、リンパ管疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫）</b>		
①診断と治療（内科的、外科的）の方法を理解できる		
②診断および治療方針決定のための検査を理解し、治療方針を立案できる		
<b>高血圧症（本態性、二次性高血圧等）</b>		
①高血圧症の分類ができる		
②高血圧症ガイドラインを熟読し、高血圧症治療について理解する		
③高血圧症の危険因子と臓器障害を説明できる		
④高血圧症患者の生活習慣の修正の指導ができる		
⑤高血圧緊急症への対応ができる		
<b>肺循環障害（肺塞栓について）</b>		

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
①診断と治療（内科的、外科的）の方法を理解できる		
②本疾患を疑うべき臨床症状を説明できる		
③本疾患の診断に必要な検査を列挙できる		
④本疾患の病態に応じた緊急治療の方法を説明できる		
循環器検査の方法と所見について理解し指導医のもとにできるだけ実践する		
①胸部レントゲン写真		
②心電図（12誘導、モニター）		
③酸素飽和度（パルスオキシメーター）		
④心臓超音波検査（経胸壁、経食管、冠動脈、薬物負荷、コントラスト）		
⑤血管超音波検査（頸動脈、下肢動脈、下肢静脈、腹部大動脈）		
⑥ABI、ドップラー血流計		
⑦運動負荷心電図（トレッドミル）		
⑧心筋シンチグラム（負荷、安静）		
⑨肺血流シンチグラム		
⑩加算心電図		
⑪心臓カテーテル検査（待機、緊急）		
⑫スワングアンツカテーテル検査		
⑬心臓電気生理学的検査		
⑭チルトテスト、起立試験		
⑮採血検査（一般、生化学、血清、血糖、ホルモンなど）		
⑯血液ガス分析		
⑰尿検査（一般、沈渣、ホルモン、電解質など）		

呼吸器科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
<b>1. 基本的診察法</b>			
1) 病歴聴取			
2) 全身身体所見の取り方			
3) 胸部の打診、聴診、触診法			
<b>2. 呼吸器および血液疾患、感染症に関する検査法</b>			
1) 一般検尿、血算、血液生化学検査、喀痰検査（一般細菌、抗酸菌、細胞診）			
2) 胸部X線検査			
3) 胸部C T			
4) 呼吸機能検査			
5) 胸水検査			
6) 末梢血塗沫標本作成			
7) 骨髄穿刺法			
8) 血液型検査法			
<b>3. 呼吸器疾患の治療</b>			
1) 吸入療法、体位ドレナージ			
2) 気管支喘息の治療			
3) 呼吸器感染症の治療			
4) 酸素療法			
5) 輸液療法			
6) 肺癌の治療			
<b>4. 血液疾患の治療</b>			
1) 輸血			
2) 貧血の治療			
3) 造血器悪性腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）の治療			
4) 紫斑病の治療			

神経内科の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
<b>1. 神経疾患の基本的診察法</b>			
①病歴の取り方			
②一般内科学的所見の取り方			
③神経学的所見の取り方（質的診断、部位診断）			
意識状態、精神状態、高次大脳機能、脳神経系			
筋萎縮と筋力低下、感覚障害、協調運動系、自律神経系			
<b>2. 神経疾患に関する検査</b>			
内科一般検査（血液一般、生化学、血液凝固、ECG、胸部単純XP） 腰椎穿刺、電気生理学検査			
頭部・脊髄画像診断（XP、CT、MRI、SPECT、Angiography）			
神経・筋生検、神経心理学検査、遺伝子診断			
<b>3. 神経疾患の治療</b>			
①薬物治療（血液浄化療法の含む）			
脳血管障害の治療、急性期・慢性期			
パーキンソン病の治療			
各種不随意運動の治療			
免疫性神経疾患の治療			
てんかんの治療			
②神経内科救急疾患の治療			
意識障害、てんかん重責、呼吸筋麻痺			
③その他			
生活指導、リハビリテーション、訪問診療			
<b>4. 研修が望まれる疾患</b>			
脳血管障害（急性期・慢性期）、痴呆（血管性痴呆を含む）			
パーキンソン病、その他の大脳基底核疾患			
脳炎、髄膜炎、多発性硬化症、重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症			
脊髄小脳変性症、ミオパチー、ニューロパチー、てんかん、頭痛、めまい			
脊髄障害、代謝性脳症、一酸化炭素中毒、失神			
加齢に伴う栄養摂取障害、老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥創等）			
<b>5. 全身管理</b>			

精神科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
①	精神医学的な病歴に聴取、初回面接の技法、カルテ記載法を習得する。		
②	精神症状の的確な把握と、精神医学用語の適切な表現を習得する。		
③	精神科に特有な面接法、臨床心理検査を含む診断技能を理解し実践する。		
④	統合失調症、気分障害、症状精神病、中毒性精神病、神経症、てんかん、精神発達遅滞、自閉症、人格障害、老年期精神障害などの病態生理を理解し、診断法を習得する。		
⑤	精神保健福祉法及び関連法規の理解と運用を行う。		
⑥	向精神薬についての正しい知識と使用法や副作用についての基礎を身につける。		
⑦	精神療法、生活療法、集団療法、家族療法、心理教育などの特殊治療を習得する。		
⑧	コンサルテーション・リエゾン精神医学を理解し、他科との連携を学び実践する。		
⑨	症例検討会、回診に参加する。		
⑩	担当患者の症例報告を行う。		



小児科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
一般目標：小児の診療を適切に行うために必要となる基礎的な知識・技能・態度を修得する。			
<b>1. 小児科診療の特性</b>			
<input type="checkbox"/> 年齢による疾患の特性を学ぶ。			
<input type="checkbox"/> 親（保護者）の観察を十分に引き出すための問診法を学ぶ。			
<input type="checkbox"/> 親（保護者）とのコミュニケーションの重要性を学ぶ。			
<input type="checkbox"/> 診察に協力を得るため、子供をあやすなどの行為を習得する。			
<input type="checkbox"/> 小児の薬用量、補液量、検査の基準値に関する知識を習得する。			
<input type="checkbox"/> 乳幼児の検査に不可欠な鎮静法、採血、血管確保などを経験する。			
<input type="checkbox"/> 救急診療、時間外診療を経験する。			
<b>2. 面接、指導</b>			
<input type="checkbox"/> 小児、ことの乳幼児に不安を与えないように接することができる。			
<input type="checkbox"/> 親（保護者）から、発病の状況、患児の生育歴、既往歴、予防接種歴などを要領よく聴取することができる。			
<input type="checkbox"/> インフォームド・コンセント、インフォームド・アセントに配慮した対応ができる。			
<b>3. 診察</b>			
<input type="checkbox"/> 小児の正常な身体発育、精神運動発達、生活状況を理解し判断できる。			
<input type="checkbox"/> 小児の年齢差による特徴を説明できる。			
<input type="checkbox"/> 視診による顔貌と栄養状態を判断し、主要症状の有無を知ることができる。			
<input type="checkbox"/> 乳幼児の口腔、咽頭、鼓膜の視診ができる。			
<input type="checkbox"/> 発熱のある患児の診察を行い、日常病の診断と治療ができる。			
<input type="checkbox"/> 熱性けいれんの処置ができる。			
<input type="checkbox"/> 咳をする患児では、咳の出かたと呼吸困難、喘鳴の有無などから、グループ、細気管支炎、気管支喘息の鑑別診断ができる。			
<input type="checkbox"/> 発疹のある患児では、発疹の所見を述べることができ、日常病（麻疹、風疹、突発性発疹、伝染性紅斑、手足口病、単純性ヘルペス感染症、水痘、帯状疱疹、伝染性単核球症、マイコプラズマ感染症、溶連菌感染症）の鑑別ができる。			
<input type="checkbox"/> 下痢の患児では、便の性状（粘液、血液、膿など）を述べることができる。			
<input type="checkbox"/> 嘔吐や腹痛のある患児では、重大な腹部所見を述べることができる。			
<input type="checkbox"/> けいれんや意識障害のある患児では、髄膜刺激症状について述べるができる。			
<input type="checkbox"/> 脱水症の的確な診断と原因について調べることができる。			
<b>4. 新生児</b>			

研 修 目 標 内 容	自 己 評 価	指 導 医 評 価
□新生児の日常的なケア（保育環境、必要水分量の計算、栄養管理、体重測定、バイタルサイン、黄疸の評価など）ができる。		
□新生児の採血ができる。		
□新生児の血管確保ができる。		
□新生児の光線療法の必要性の判断ができる。		
<b>5. 手技、処置</b>		
□採血（毛細血管、静脈血、動脈血）ができる。		
□注射（静脈、筋肉、皮下、皮内）ができる。		
□輸液、輸血ができる。		
□採尿、導尿ができる。		
□坐薬を挿入できる。		
□浣腸ができる。		
□注腸、高圧浣腸ができる。		
□胃洗浄ができる。		
□腰椎穿刺ができる。		
□吸入療法ができる。		
<b>6. 薬物療法</b>		
□小児の年齢に応じた薬用量を理解し、それに基づいて一般薬剤（抗生剤など）を処方できる。		
□乳幼児に対する薬剤の服用、使用について看護師に指示し、親（保護者）に指導することができる。		
□年齢、疾患に応じて補液の種類、量を決めることができる。		
<b>7. 小児救急</b>		
□喘息発作の応急処置ができる。		
□脱水症の応急処置ができる。		
□けいれんの応急処置ができる。		
□腸重積を診断し、整復治療ができる。		
□人工呼吸、心臓マッサージなどの蘇生術を実施することができる。		
□新生児仮死の蘇生術を実施できる。		

外科の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
指導医のもとに2-4名の患者を受持ち、前期研修の課程をさらに深めるとともに、日当直業務を行い実際に救急医療に携わり、以下の目標を達成する			
<b>1. 手術適応、術中、術後管理の基本治療法の実施</b>			
(1) 輸液管理（中心静脈栄養、経腸栄養を含む）			
(2) 呼吸管理、循環管理、各種合併症管理			
<b>2. 以下の手技を実施する</b>			
(1) 創部消毒とガーゼ交換			
(2) 切開・排膿術			
(3) 皮膚縫合法を実施できる			
(4) 局所麻酔法を実施できる			
(5) 甲状腺の診察ができ、記載できる			
(6) 肛門の診察ができ、記載できる			
(7) 胃管の挿入と管理			
(8) 体表良性腫瘍摘出術			
(9) 気管カニューレの交換			
(10) 胃瘻チューブの交換			
<b>3. 以下の手術の助手となる</b>			
(1) 虫垂切除術			
(2) 鼠径ヘルニア根治術			
(3) 痔の手術			
(4) 胃瘻造設術（開腹、内視鏡的）			
(5) 気管切開術			
(6) 腸吻合術			
(7) 甲状腺の手術			
(8) 乳腺の手術			
(9) 胆石症の手術			
(10) 胃悪性腫瘍手術			
(11) 大腸悪性腫瘍手術			
(12) 肝胆膵悪性腫瘍手術			
(13) 肺悪性腫瘍手術			
(14) 腹腔鏡下手術			
(15) 胸腔鏡下手術			
<b>4. 文書（公文書を含む）の記録、保存等の扱いを適切に行う</b>			
(1) 診療録（カルテ）、手術記録、退院時サマリーを記録し、管理できる			
(2) 指示箋、処方箋、各種伝票を作成し、管理できる			

研 修 目 標 内 容	自 己 評 価	指 導 医 評 価
(3) 診断書、死亡診断書（死体検案書を含む）、その他の診断書を作成し管理できる		
(4) 紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる		
<b>5. 医療面接</b>		
(1) 医療面接におけるコミュニケーションスキルを身につける		
(2) インフォームドコンセントのもとに、患者・家族への適切な指示、誘導ができる		
<b>6. 症例呈示</b>		
(1) 症例呈示と討論ができる		
(2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する		
<b>7. 緩和・終末期医療</b>		
(1) 臨終の立会いを経験する		
(2) 癌性疼痛管理を含む緩和ケアを理解する		
(3) 癌告知をめぐる諸問題への配慮ができる		
(4) 患者とその家族に対して心理的社会的側面への配慮ができる		
(5) 緩和ケアチーム、栄養サポートチームなどへ積極的に参加し、チーム医療の重要性を理解する		

整形外科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
<b>I. 救急医療</b>		
一般目標：運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力を修得する。		
行動目標：		
1. 多発外傷における重要臓器損傷とその症状を述べることができる。		
2. 骨折に伴う全身的・局所的症状を述べるができる。		
3. 神経・血管・筋腱損傷の症状を述べるができる。		
4. 脊髄損傷の症状を述べるができる。		
5. 多発外傷の重症度を判断できる。		
6. 多発外傷において優先検査順位を判断できる。		
7. 開放骨折を診断でき、その重症度を判断できる。		
8. 神経・血管・筋腱損傷を診断できる。		
9. 神経学的観察によって麻痺の高位を判断できる。		
10. 骨・関節感染症の急性期の症状を述べるができる。		
<b>II. 慢性疾患</b>		
一般目標：適正な診断を行うために必要な運動器慢性疾患の重要性と特殊性について理解・修得する。		
行動目標：		
1. 変性疾患を列挙してその自然経過、病態を理解する。		
2. 関節リウマチ、変形性関節症、脊椎変性疾患、骨粗鬆症、腫瘍のX線、MRI、造影像の解釈ができる。		
3. 上記疾患の検査、鑑別診断、初期治療方針を立てることができる。		
4. 腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる。		
5. 神経ブロック、硬膜外ブロックを指導医のもとで行うことができる。		
6. 関節造影、脊髄造影を指導医のもとで行うことができる。		
7. 理学療法の処方が理解できる。		
8. 後療法の重要性を理解し適切な処方できる。		
9. 一本枕、コルセット処方が適切にできる。		
10. 病歴聴取に際して患者の社会的背景やQOLについて配慮できる。		
11. リハビリテーション・在宅医療・社会復帰などの諸問題を他の専門家、コメディカル、医療社会事業士と検討できる。		
<b>III. 基本手技</b>		
一般目標：運動器疾患の正確な診断と安全な治療を行うためにその基本手技を修得する。		
行動目標：		
1. 主な身体計測（ROM、MMT、四肢長、四肢周囲径）ができる。		

研 修 目 標 内 容	自 己 評 価	指 導 医 評 価
2. 疾患に適切なX線写真の撮影部位と方向を指示できる。(身体部位の正式な名称が言える。		
3. 骨・関節の身体所見がとれ、評価できる。		
4. 神経学的所見がとれ、評価できる。		
5. 一般的な外傷の診断、応急処置ができる。		
①成人の四肢の骨折、脱臼		
②小児の外傷、骨折		
③靭帯損傷		
④神経・血管・筋腱損傷		
⑤脊椎・脊髄外傷の治療上の基本的知識の修得		
⑥開放骨折の治療原則の理解		
6. 免荷療法、理学療法の指示ができる。		
7. 清潔操作を理解し、創処置、関節穿刺・注入、小手術、直達牽引ができる。		
8. 手術の必要性、概要、侵襲性について患者に説明し、うまくコミュニケーションをとることができる。		
<b>IV. 医療記録</b>		
一般目標：運動器疾患に対して理解を深め、必要事項を医療記録に正確に記載できる能力を修得する。		
行動目標：		
1. 運動器疾患について正確に病歴が記載できる。 主訴、現病歴、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴、アレルギー、内服歴、治療歴		
2. 運動器疾患の身体所見を記載できる。 脚長、筋萎縮、変形、ROM、MMT、反射、感覚、歩容、ADL		
3. 検査結果の記載ができる。 画像、血液生化学、尿、関節液、病理組織		
4. 症状、経過の記載ができる。		
5. 検査、治療行為に対するインフォームド・コンセントの内容が記載できる。		
6. 紹介状、依頼状を適切に書くことができる。		
7. リハビリテーション、義肢、装具の処方、記載ができる。		
8. 診断書の種類と内容が理解できる。		

脳神経外科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
	病棟（ICUを含む）並びに救急外来勤務を行い、専門医の指導のもと、以下の事項について研修する。主に脳卒中患者の初期診断を指導医とともに従事し、脳卒中急性期の診断要点を習得する。		
	<b>1. 神経救急患者の診察（脳卒中と頭部外傷）</b>		
	1) 全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握）ができる。		
	2) 頭頸部の診察（瞳孔の観察、障害部位の視診、頭頸部の聴診）ができる。		
	3) 神経学的診察が出来、記載できる。		
	<b>2. 脳卒中急性期および頭部外傷急性期の診断</b>		
	1) 頭部CT検査が読影できる。		
	2) 頭部脳血管撮影が読影できる。		
	3) 頭部MRI検査が読影できる。		
	4) 頭部核医学SPECT検査を理解する。		
	5) 神経生理学的検査（脳波、ABR、SSER）を理解する。		
	6) 動脈血ガス分析の結果と意識障害との関係を理解できる。		
	7) 髄液検査ができる。		
	<b>3. 脳卒中急性期および頭部外傷急性期の治療</b>		
	1) 意識障害患者の気道確保が実施できる。		
	2) 採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。		
	3) 意識障害患者の気管内挿管を実施できる。		
	4) 意識障害患者の導尿法を実施できる。		
	5) 意識障害患者への胃管の挿入と管理ができる。		
	6) 頭皮外傷へ局所麻酔法を実践できる。		
	7) 頭部の創部消毒とガーゼ交換を実施できる。		
	8) 頭皮の皮膚縫合法と実施できる。		
	9) 意識障害患者の療養（安静度、体位、食事、入浴、排泄）管理ができる。		
	10) 抗痙攣剤、脳血降下剤等の薬物の作用、副作用、相互作用について理解できる。		
	11) 脳圧上昇患者の輸液管理が適切にできる。		
	12) 診療録をPOSに従って記載し、管理できる。		
	13) 処方箋、指示箋を作成し、管理できる。		
	14) 紹介状と紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。		
	<b>4. 以下の代表的症状の鑑別診断ができる</b>		
	1) 以下の脳幹障害症状の鑑別診断ができる。		
	①めまいの鑑別診断ができる。		
	②聴覚障害の鑑別診断ができる。		

研 修 目 標 内 容	自 己 評 価	指 導 医 評 価
③嘔気・嘔吐の鑑別診断ができる。		
④嚥下障害の鑑別診断ができる。		
⑤嘔気・嘔吐の鑑別診断ができる。		
2) 意識障害の鑑別診断ができる。		
3) 頭痛の鑑別診断ができる。		
4) 視力障害、視野狭窄の鑑別診断ができる。		
<b>5. 脳神経外科的手術法</b>		
1) 手術に参加し、脳外科的手術内容を理解する。		
2) 術後管理を行い、患者管理の要点を理解する。		
3) 痙攣、頭蓋内圧亢進の管理を理解する。		
<b>6. 脳死</b>		
1) 脳死の概念を理解する。		
2) 脳死状態に至る神経学的過程を理解する。		
3) 脳死臓器移植の手続きについて理解する。		
<b>7. 脳卒中患者（脳梗塞、脳内出血）を受け持ち、以下の項目の症例レポートを提出する</b>		
1) 診断		
2) 検査結果		
3) 治療方針		
4) 治療結果		



## 形成外科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
<b>1. 診断</b>			
一般目標 (GIO) :			
	形成外科において頻度の高い疾患について、問診および理学所見を通じて必要な検査を選択し、基本的治療を決定できる。		
行動目標 (SBO) :			
1)	問診や理学所見より、形成外科的問題点を明らかにすることができる。		
2)	熱傷について、問診や視診により大まかな深達度を診断し、初期治療と機能・整容的予後を判断できる。		
3)	顔面や四肢の外傷に対し、基本的な初期治療を判断できる。		
4)	顔面骨折について問診や理学的所見よりX線・CT・MRIなどの必要な検査を選択し診断かつ基本的な初期治療を判断できる。		
5)	頻度の高い先天異常の問診や視診により診断し、基本的な治療をのべ、先天異常に対するインフォームド・コンセントの要点を説明できる。		
6)	代表的皮膚・軟部腫瘍の診断と治療法を判断できる。		
7)	外傷や手術による変形や組織欠損の診断を行い治療法を判断できる。		
	留意すべき注意事項として、形成外科の患者さんは体表に現れている変形の程度以上に精神的苦悩が大きい場合が多いため、言動に十分な配慮を払うことが大切である。		
<b>2. 治療</b>			
一般目標 (GIO) :			
	清潔・不潔を理解した消毒処置ができ、形成外科における基本的な処置と小手術ができる。		
行動目標 (SBO) :			
1)	形成外科的な切開や縫合の方法と要点を学習する。		
2)	顔面及び四肢外傷に対する形成外科的な初期治療ができる。		
3)	皮膚移植のための全層皮膚の採皮、デルマトームを用いた分層皮膚の採皮ができる。		
4)	皮膚・軟骨・骨などの組織移植の適応、手技を理解する。		
5)	簡単な皮膚・軟部腫瘍の摘出術ができる。		
6)	レーザー治療の手技を経験できる。		
7)	マイクロサージャリーを用いた組織移植術の適応、手技を学習し、術後管理を経験できる。		
8)	顔面骨折の治療や顔面骨切り術の適応、手技を学習する。		
9)	形成外科的再建法と機能・整容的予後の関係を理解する。		

皮膚科の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
<b>1. 皮膚疾患の診察と診察方法を習得</b>			
①病歴聴取	主訴、現病歴、既往歴、家族歴など診療に必要な情報を正確に聴取できること。		
②皮膚科関連用語の理解	皮疹の特徴を正確に分類できること。		
<b>2. 皮膚疾患の検査方法を習得</b>			
①一般的検査	皮膚描記法、パッチテスト、真菌検査、細菌検査、皮膚生検などの皮膚科検査の全般的事項、適応の理解。		
②皮膚病理学の基礎。			
③皮疹との関連が疑われる疾患の精査。			
<b>3. 皮膚疾患の治療方法を習得</b>			
①基本的処置（切開、縫合を含む）救急患者の対応。			
②掻痒、疼痛に対する全身療法の種類と適応。			
③外用剤の使用法、局所副作用の知識。			
④光線療法の適応と実施。			
⑤抗生剤の使用法、副作用。			
⑥ステロイドの全身投与の適応、禁忌、使用方法、副作用。			
⑦熱傷処置と管理。			
<b>4. 皮膚外科治療を習得</b>			
①皮膚腫瘍の手術			

泌尿器科 の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
<b>1. 診断と検査</b>			
GIO：泌尿器科疾患ならびに腎臓内科疾患に対し適切な問診の上、理学的所見をとり、必要な検査を選び出し遂行することができる。			
SBO：			
(1) 主訴、現病歴に応じて適切な問診ができ、問診の結果から疾患群の想定を行ない、鑑別に要する検査法の体系化ができる。			
(2) 次の検査を指示、自ら実施し、所見を判定することができる。			
A：泌尿生殖器の理学的検査（腎触診、前立腺触診、膀胱双手診、陰嚢内容触診、神経学的検査など）水・電解質異常に関連した理学的検査			
B：血液、血液生化学、血液ガス分析			
C：X線検査（KUB、IVP、DIP、RP、CG、UVG、CTなど）			
D：超音波検査			
E：ウロダイナミックス（尿流量検査、膀胱内圧測定など）			
F：核医学検査（腎シンチグラフィ、レノグラム、骨シンチなど）			
G：腎機能検査（クレアチニン・クリアランスなど）			
H：MRI			
I：経皮的腎生検			
<b>2. 治療</b>			
GIO：泌尿器科領域ならびに腎臓内科領域の基本治療に関する意義・原理を理解し、適応を決め、手術手技を習得し、治療前後の管理ができる。			
SBO：			
(1) 次の各疾患について十分な知識を持ち、必要に応じて適切な治療方針をたて遂行する。			
A：非特異性感染症（急性膀胱炎、急性腎盂腎炎、急性前立腺炎、急性精巣上体炎など）			
B：性行為感染症			
C：尿路機能障害（神経因性膀胱など）			
D：陰嚢疾患（陰嚢水腫、精索捻転症など）			
E：尿路結石症			
F：腫瘍			
腎腫瘍			
腎盂・尿管腫瘍			
膀胱腫瘍			
前立腺腫瘍			
副腎腫瘍			

研 修 目 標 内 容	自 己 評 価	指 導 医 評 価
陰茎腫瘍		
G:腎不全（急性腎不全、慢性腎不全）、透析		
H:糸球体腎炎、糖尿病性腎症		
(2) 泌尿器科手術の術前術後管理ができる。		
(3) 次の手術を理解し、指導者の下でその手術ができる。		
A:陰囊内容手術		
B:経皮的腎瘻造設術		
C:対外衝撃波碎石術（ESWL）		
D:包皮環状切除術		
(4) 次の基本的処置や治療法を理解し遂行する。		
A:脱水や電解質異常に対する輸液		
B:慢性腎疾患に対する薬物療法・栄養指導		
C:腎不全時の投薬ならびに輸液		
D:溢水に対する利尿薬・ECUM・透析療法		
E:緊急血液透析用のblood access		
E:血液透析患者の管理		
F:CAPD患者の管理		
G:多臓器不全に対する血液浄化法（CHDF、血漿交換療法、エンドトキシン吸着療法など）		

産婦人科の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
<b>(産 科)</b>			
1.	妊娠の検査・診断		
2.	正常妊婦の外来管理		
3.	正常分娩の管理		
4.	正常産褥の管理		
5.	正常新生児の管理		
6.	腹式帝王切開術の経験		
7.	流・早産の管理		
8.	産科出血にたいする応急処置の理解		
9.	産科的急性腹症の管理		
<b>(婦 人 科)</b>			
10.	婦人科良性腫瘍の診断と治療計画の立案		
11.	婦人科良性腫瘍の手術への助手としての参加		
12.	婦人科性器感染症の検査・診断・治療計画の立案		
13.	婦人科悪性腫瘍の早期診断法の理解		
14.	婦人科悪性腫瘍の手術への参加経験		
15.	婦人科悪性腫瘍の集中的治療の理解		
16.	婦人科急性腹症の患者の管理		
17.	不妊症・内分泌疾患患者の外来における検査と治療計画の立案		

眼科の研修目標と実施計画

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
<b>1. 眼科的検査の習得</b>		
①視力検査		
②眼位、眼球運動についての諸検査		
③色覚測定、視野測定、隅角検査、緑内障負荷検査など		
④細隙燈顕微鏡検査		
⑤眼底検査		
<b>2. 眼科疾患の診断</b>		
①眼科各疾患の理解		
②他科疾患との関連		
<b>3. 眼科的治療技術の習得</b>		
①基礎的治療手技（点眼、洗眼、結膜下注射など）		
②伝染性疾患の予防と治療		
③眼外傷の救急処置		
④弱視訓練手技		
⑤急性眼疾患の救急処置		
⑥眼手術の基本的な手技（消毒、麻酔、術前、術後の患者管理）		
⑦眼手術手技の習得（助手として十分経験、習熟した後に順次術者となりうる）		
・外眼部手術（麦粒腫切開、内反症手術、斜視手術など）		
・内眼部手術（白内障手術、緑内障手術、網膜剥離手術など）		
・レーザー治療（虹彩凝固、網膜光凝固など）		
<b>4. カンファレンス、抄読会への参加</b>		
<b>5. 症例報告、臨床統計報告</b>		

耳鼻咽喉科の研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
外来 a	耳鼻咽喉科全般の疾患の診断と治療		
外来 b	外来救急処置（鼻出血止血等）および外来小手術（鼻茸切除、唾石摘出等）		
入院 a	術前・術後の管理		
入院 b	入院患者・家族への接しかた		
入院 c	悪性腫瘍の治療、ターミナルケアの研修		
手術 a	手術の見学実習および小手術の実施		
手術 b	扁桃摘出術・副鼻腔炎手術・気管切開術・喉頭微細手術などの手術助手		
検査 a	聴覚機能検査および平衡機能検査の実施		
検査 b	唾液腺造影・上顎洞造影・その他外来における諸検査の実施		

麻酔科の研修目標と実施計画

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
麻酔科の研修目標は、急性期生体反応制御技術としての呼吸・循環管理および鎮静・鎮痛の技術を修得することにある。さらに、合併疾患を持つ患者の麻酔管理を通して、様々な疾患の内科的急性期管理と重症患者の急性期管理技術を修得する。		
<b>1. 生体反応制御技術としての麻酔管理の基礎的知識を習得する</b>		
<b>2. 周術期における危機管理について理解・実践する</b>		
<b>3. 麻酔合併症とその予防について理解・実践する</b>		
<b>4. 局所麻酔法を理解・実践する</b>		
局所麻酔薬の理解と使用		
脊椎麻酔の施行		
硬膜外麻酔の施行		
<b>5. 全身麻酔法を理解・実践する</b>		
麻酔器の構造の理解と使用		
気道確保と用手換気の施行		
ラリンジアルマスクの使用		
気管内挿管の施行		
人工呼吸器の使用		
患者監視装置の使用		
筋弛緩薬、鎮痛薬、鎮静薬の理解と使用		
循環作動薬（含蘇生薬）の理解と使用		
静脈路確保の施行		
観血的動脈圧測定の施行		
気管支内視鏡の施行		
周術期輸液の管理		
<b>6. 術前・術後患者管理</b>		
周術期患者の全身状態評価と合併疾患の管理について理解・実践する		
<b>7. 疼痛を主訴とする疾患への対処について理解・実践する</b>		
鎮痛補助薬の理解と使用		
モルヒネ製剤の理解と使用		



放射線科の研修目標と実施計画

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
<b>1. 画像診断総論</b>		
1) 各種放射線機器それぞれの特徴を理解する。		
2) 診断目的に応じた画像検査を選択できる。		
3) 各種検査の前処置並びに合併症を理解する。		
4) 診療放射線技師や看護師等のコメディカルスタッフと強調して業務を行える。		
5) 医用画像の原理、画像データ容量を理解できる。		
<b>2. CT</b>		
1) CT解剖の理解		
2) 全身のCT診断で異常像を認識できる。		
3) 撮影プロトコルを理解し、疾患に対応した撮影プロトコルを決定することができる。		
<b>3. MRI</b>		
1) MRI解剖の理解		
2) 異常像を認識できる		
3) 撮影プロトコルを理解し、疾患に対応した撮影プロトコルを決定することができる。		
<b>4. RI検査</b>		
1) RI検査の種類と使用各種を理解し適応が判断できる。		
2) 正常像異常像が区別できる。		
<b>5. 血管撮影</b>		
1) 各部位の血管解剖を理解する。		
2) IVRの適応を理解できる。		
3) IVRを含めた血管撮影の手技と合併症を理解する。		
<b>6. 放射線障害</b>		
1) 被爆と障害の関係を理解する。		
2) 検査にあたって可能な防御を行う事ができる。		
<b>7. 放射線治療総論</b>		
1) 放射線物理学、生物学に基づく放射線の原理を理解する。		
2) 線量の単位、線量分布、線量計算の原理が理解できる。		
3) 外照射の治療計画をできる。		
4) 診療放射線技師や看護師等のコメディカルスタッフと強調して業務を行える。		
5) フォントームを使って放射線の測定ができる。		
<b>8. 放射線治療の臨床</b>		

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
1) 放射線治療の適応を理解できる。		
2) 集学的治療を理解し実行できる。		
3) 放射線治療に伴う障害発生を予測し、その治療ができる。		
4) TNM分類、stagingの決定ができ、照射野の設定、投与線量を決定できる。		
5) 病理組織学的分類により治療効果が予測できる。		
6) 治療計画装置を使用して照射野を決定し線量分布を描くことができる。		
7) 治療終了後の経過観察に際し、再発転移の部位を予測し、それに必要な検査を実施、その有無を確認し治療計画を立てることができる。		

救命救急センターの研修目標と実施計画

研 修 目 標	内 容	自己 評価	指導医 評価
【救急医療】	生命や機能的予後に係る、緊急を要する病態、疾病、外傷について適切な対応ができる		
1)	バイタルサインの把握ができる		
2)	重症度および緊急度の把握ができる		
3)	ショックの診断と治療ができる		
4)	症状、病態から鑑別診断を迅速に列記できる		
5)	検査や処置の目的、合併症、結果などについて十分な説明ができる		
6)	必要な検査を適切に順序よく自ら実施できる		
7)	基本的手技の適応を決定し、正確に実施できる		
8)	一次、二次救命処置を正しく行うことができる		
9)	適切な時期に適切な方法で、各診療科（専門医）、診療機関にコンサルテーションできる		
10)	患者、家族と十分な意思疎通を図りインフォームドコンセントをとることができる		
11)	医療スタッフのすべての構成員と適切なコミュニケーションをとることができる		
12)	災害時の救急医療体制の中で自己役割を遂行できる		
13)	地域医療スタッフと適切なコミュニケーションを図り、迅速な救急医療を実施できる		
14)	地域救急救命士・救急隊員に適切な一次救命処置を指示、指導できる		
15)	標準感染対策を理解し実施できる		
【緊急を要する症状、病態】	下記の病態について、初期治療に参加する		
1)	ショック		
2)	急性臓器不全（呼吸不全、心不全、肝不全、腎不全、DIC、多臓器不全脳死）		
3)	心肺停止		
4)	意識障害		
5)	外傷、多発外傷		
6)	急性腹症		
7)	消化管出血		
8)	虚血性心疾患		
9)	脳血管障害		
10)	感染症、肺血症、SIRS		
11)	熱傷		
12)	急性中毒（アルコール、薬物など）		

救命救急センターの研修目標と実施計画

研 修 目 標 内 容	自己 評価	指導医 評価
1 3) 環境障害（熱中症、寒冷による障害など）		
1 4) 精神科救急、小児虐待		
1 5) 異物誤飲・誤嚥、刺咬傷、溺水		
1 6) 集団災害		

## 4-1. 協力型臨床研修病院プログラム

### 1 社団医療法人祐和会 北リアス病院研修プログラム

#### 1. 研修目標

精神疾患の知識を習得し、的確に診断し、患者様に適切な治療を行うことを目指す。また、医療スタッフや患者家族との連携も含めて、医師としての基礎的態度を習得する。

G I O : 精神医学は、その対象が精神的、身体的表現を合わせた複雑な現象を呈する患者様である。これまで培った知識、技術を再認識し、総合的に問題の解決に当たることを目標とする。

#### S B O s :

- 1) 精神医学的面接技法を習得する。
- 2) 病歴聴取の技術を習得する。
- 3) 精神疾患の診断及び鑑別診断を習得する。
- 4) 精神科救急の診察法を習得する。
- 5) 各種の検査法を習得する。
- 6) 治療法を選択実施できるようになる。
- 7) 患者、家族との適切なコミュニケーションがとれるようになる。
- 8) いわゆるリエゾン精神医学を理解実施できる。
- 9) 精神保健福祉法を理解し実施できる。
- 10) 精神科リハビリテーションを理解する。

#### 経験すべき疾患、病態

- 1) 統合失調症
- 2) うつ病、うつ状態
- 3) 症状精神病
- 4) 痴呆
- 5) アルコール症
- 6) 不安性障害
- 7) せん妄
- 8) 睡眠障害
- 9) 身体表現性障害

#### 経験が望まれる疾患

- 1) 双極性感情障害
- 2) 強迫性障害
- 3) 摂食障害
- 4) 人格障害

#### 2. 研修計画

- 1) 研修期間は1～2ヶ月とする。
- 2) 研修医はそれぞれの研修内容につきレポートを提出する。(様式は別に定める。)
- 3) 研修修了時に研修終了証を交付する。

#### 3. 研修評価

研修修了時に、指導医により目標到達状況について評価を行う。

#### 4. 研修内容、方法

- 1) 外来：新患を中心に初期治療に参加する。
- 2) 病棟：主要な疾患の治療に参加する。
- 3) 作業療法、デイケア、地域精神保健活動に参加する。

#### 2 岩手県立二戸病院

臨床研修に関する省令及び県立久慈病院の研修目標と実施計画に沿って、各診療科で充実した研修教育を行っていく。

#### 3 岩手医科大学附属病院

臨床研修に関する省令及び県立久慈病院の研修目標と実施計画に沿って、各診療科で充実した研修教育を行っていく。

#### 4 岩手県立宮古病院

臨床研修に関する省令及び県立久慈病院の研修目標と実施計画に沿って、各診療科で充実した研修教育を行っていく。

#### 5 岩手県立中央病院

臨床研修に関する省令及び県立久慈病院の研修目標と実施計画に沿って、各診療科で充実した研修教育を行っていく。

#### 6 盛岡赤十字病院

臨床研修に関する省令及び県立久慈病院の研修目標と実施計画に沿って、各診療科で充実した研修教育を行っていく。

#### 7 岩手県立胆沢病院

臨床研修に関する省令及び県立久慈病院の研修目標と実施計画に沿って、各診療科で充実した研修教育を行っていく。

#### 8 岩手県立磐井病院

臨床研修に関する省令及び県立久慈病院の研修目標と実施計画に沿って、各診療科で充実した研修教育を行っていく。

#### 9 岩手県立千厩病院

臨床研修に関する省令及び県立久慈病院の研修目標と実施計画に沿って、各診療科で充実した研修教育を行っていく。

## 10 岩手県立大船渡病院

臨床研修に関する省令及び県立久慈病院の研修目標と実施計画に沿って、各診療科で充実した研修教育を行っていく。

## 11 岩手県立釜石病院

臨床研修に関する省令及び県立久慈病院の研修目標と実施計画に沿って、各診療科で充実した研修教育を行っていく。

## 12 北上済生会病院

臨床研修に関する省令及び県立久慈病院の研修目標と実施計画に沿って、各診療科で充実した研修教育を行っていく。

## 13 岩手県立中部病院

臨床研修に関する省令及び県立久慈病院の研修目標と実施計画に沿って、各診療科で充実した研修教育を行っていく。

## 14 岩手県立一戸病院

臨床研修に関する省令及び県立久慈病院の研修目標と実施計画に沿って、各診療科で充実した研修教育を行っていく。

## 4-2. 臨床協力施設プログラム

### 1 岩手県久慈保健所臨床研修実施方針

#### 1. 理念

地域保健研修においては、ヘルスプロモーションを基盤とした地域保健、健康増進及びプライマリ・ケアからリハビリテーション、さらに福祉サービスにいたる連続した包括的な保健医療を理解する。また、公衆衛生の重要性を実践の場で学ぶとともに、地域保健行政における医師の役割を理解する。

#### 2. 目標

健康障害、疾病予防のための各種対策及び健康増進や健康づくりのための計画、制度やシステム、さらに健康危機管理体制の仕組みを理解し実践することにより、医師法第1条（医師の任務）に定めるところの、医師としての地域保健・公衆衛生活動に対する態度・技能・知識を身につける。

#### 3. 研修内容

- (1) 地域保健・健康づくりの場としての保健所及び市町村保健センターの機能、役割の理解及び関係法規の理解
- (2) 地域保健活動の理解と実践
- (3) 結核・エイズ等感染症対策の理解と実践
- (4) 健康危機管理の理解と実践
- (5) 福祉サービスの理解と実践
- (6) 他機関との連携の必要性・重要性の理解

#### 4. 研修期間

1ヶ月（4週間）

#### 5. 研修指導医

岩手県久慈保健所長

#### 6. 地域保健研修委員会

保健所の研修担当職員及び地域保健研修の協力施設等の研修担当職員で構成する地域保健研修委員会を設置し、研修の企画・運営を行う。





## 地域保健臨床研修プログラム

	月	火	水	木	金
第1週	<p>オリエンテーション</p> <p>地域の概況</p> <p>保健行政総論 (所長)</p>	<p>地域保健行政 総論 (所長)</p> <p>関係法則 (衛 生法規) (所 長)</p>	<p>地域保健活動 論 I (各担当 課長、所長)</p> <p>母子保健・老 人保健・難 病・感染症</p> <p>家庭訪問 (結 核)</p>	<p>地域保健活動 論 II (各担当 課長、所長)</p> <p>医事・薬事・ 保健医療計画</p> <p>家庭訪問 (精 神)</p>	<p>地域保健活動 論 III (各担当 課長、所長)</p> <p>環境衛生・食 品衛生・福祉 行政</p> <p>家庭訪問 (母 子)</p>
第2週	<p>事例検討①精 神保健</p> <p>施設見学①精 神障害者施設</p>	<p>事例検討②結 核 (感染症)</p> <p>結核診査会</p>	<p>事業参加①社 会復帰教室</p>	<p>施設見学②保 育所、子育て 支援センター</p> <p>立入検査① (産廃)</p>	<p>立入検査① (食品、水 道)</p>
第3週	<p>介護保険総論</p> <p>演習① (介護 認定調査)</p>	<p>演習② (ケア プラン)</p> <p>演習③ (介護 認定審査会)</p>	<p>演習④基本健 康診査 (実施 市町村)</p> <p>演習⑤基本健 康診査 (実施 市町村)</p>	<p>事例検討③ (難病)</p> <p>立入検査① (医療機関)</p>	<p>事例検討④ (障害児)</p> <p>事業参加②こ ころの健康相 談</p>
第4週	<p>施設見学③ (介護施設)</p>	<p>施設見学④ (障害者施 設)</p>	<p>事業参加③社 会復帰教室</p>	<p>事例検討⑤ (健康危機管 理)</p>	<p>職員との意見 交換</p> <p>研修総括</p>



## 2 洋野町国民健康保険種市病院臨床研修プログラム

当院での研修の特徴としては、第一に96床を持つ中規模病院（一般64床、療養型32床）であることから、専門性の高い医療以外は急性期の診断から治療まで行える上に、療養型病床を持つため慢性期治療の医療業務も行えることです。

第二に町立の病院であることから町民教育・小児予防接種・学校や成人病検診等の保健事業、町立の特別養護老人ホームの回診等、多岐にわたる医師としての業務を学ぶことができる点です。

また、医師4人全員が奨学生であり、そのうち3人は地元種市町の出身で地域医療を志し、現在第一線でそれを実践しているスタッフです。

そんな私たちと一緒に地域医療の楽しさや難しさを肌で感じて、医療の知識や技術のみでなく、医師として必要な人間性や地域とのかかわりも学び、考えることができるのではないかと思います。

### 研修内容

#### 1. 外来業務

- ・プライマリ・ケアの実践、慢性疾患の外来管理、生活習慣病の治療と指導
- ・救急疾患への対応（重傷度の把握）、当直業務、病診連携の理解
- ・外来検査及び手術の手技の実践と理解、人工透析患者の管理
- ・基本的な診察態度、医師患者関係の構築

#### 2. 病棟業務

- ・各種疾患の急性期及び慢性期の治療、緩和ケア
- ・ベットサイドでの検査、治療の基本的な手技の実践と理解
- ・療養型病床の理解、経管栄養導入の基本的な手技の実践と理解
- ・院内感染対策の理解

#### 3. 在宅医療

- ・訪問診療の経験と理解

#### 4. 病院業務の理解

- ・保険診療、社会保障制度、診療報酬請求書等の理解
- ・薬剤の管理、院外処方せん等の理解
- ・レントゲン業務の実践、リハビリテーションの実践
- ・臨床検査の実践、栄養指導及び栄養管理の理解

#### 5. 保健・福祉・介護の理解

- ・町民への講演、予防接種・各種検診及びその二次検診
- ・介護保険制度と介護保険サービス
- ・特別養護老人ホームの回診
- ・高齢者ケア会議の患者連絡会への参加



### 3 洋野町国民健康保険大野診療所臨床研修プログラム

#### 1 洋野町大野地区における地域医療の特徴

岩手県九戸郡洋野町大野地区は、岩手県北部に位置し、夏の「やませ」と冬の寒冷により年平均気温が約10℃と冷涼で、人口7千人の丘陵地を主体とする農山地である。旧大野村では、気候・風土に応じた森林資源の活用や自然との共生を考える「一人一芸の里」「ユークの里」づくりに長年取り組んできた。高齢化率は上昇しているが、合計特殊出生率、平均世帯人員はむしろ多く、典型的な「過疎」の村ではない。

岩手県久慈市へは25km、青森県八戸市へは30kmの距離のため、専門的医療、救急医療を必要とする患者はこれらの高次医療施設を主に利用している。従って、大野診療所における医療は、第一に高次医療施設へ紹介すべき患者を適確に診断することと、第二にこれらの施設との病診連携に基づく在宅医療の展開および個人の望む生き方への援助を特徴とする。

また、国保診療所長の洋野地区における保健・福祉活動への関わりは特に重要であり、学校医を含めた各種健康診断および予防接種業務、特別養護老人ホーム「久慈平荘」の担当医、介護保険に関連する各種会議への出席等多岐にわたる。さらに、正しい医学的知識の普及と実践のための健康教育や洋野町（旧種市町と旧大野村が合併）職員の産業医としての産業保健活動にも積極的に取り組んでいる。

研修の目標は上記の実際の理解にある。

#### 2 大野診療所における地域医療研修の要件

- 1) 久慈市より通勤とする。
- 2) 2年次の臨床研修であるから、一般的な医療の知識や手技、患者への対応方法はある程度習得したものとして、日常の診療業務に医師として携わり、地域づくりに関するテーマを研究する研修プログラムを作成している。
- 3) 医療をとりまく現状の情勢を自分なりにとらえ、それに対してどう対応してゆくか（自分の将来や地域や医療の将来のことも含めて）考える時間を設定するプログラムを状況に応じて作成している。

#### 3 研修プログラム

##### A、地域医療の実践

大野診療所は、現在病床を使用していないので、診療は外来診療と訪問診療となる。特色として、診療所に理学療法士が配置されているので、施設や在宅等における地域リハビリテーションを実施していることと、地域の健康づくりや医学的問題に対する提言を重視していることがあげられる。

- 1) 外来診療（指導医と連携して以下の業務を実施する）
  - ①新患患者の診察  
病歴・身体所見チェック、診断、治療計画の作成
  - ②めまい・ふらつきを訴える患者の身体所見チェック（歩行、神経学的所見を中心に）
  - ③外傷の処置
  - ④高次医療施設への紹介状の作成（救急搬送の場合は同乗）

- 2) 検査（指導医と連携して以下の業務を実施する）
  - ①尿検査（定性、沈渣鏡検）
  - ②血液像鏡検
  - ③超音波検査（腹部、甲状腺）
  - ④上部消化管内視鏡検査  
各所見の正確な記載を含む
- 3) 訪問診療（指導医と同行）
- 4) その他（午後の日程）  
健康診断、予防接種、講演会講師等、研修期間の行事予定に対応して指導医と連携して業務を実施する。

## B、介護保険事業に関連した研修

- 1) 特別養護老人ホーム入所者の病態とそれに対する対応（久慈平荘にて研修）
- 2) 在宅介護支援センターにおけるケアプラン作成に参加
- 3) サービス担当者会議（介護保険居宅サービス）に参加（月3回）
- 4) 高齢者ケア会議に参加（月1回）

## C、レポート課題（下記等のレポートを各自作成の上指導医の評価をうける）

- 1) 臨床関係
  - ①日常診療における適切な降圧薬の使用法
  - ②日常診察における適切な抗菌薬の使用法
  - ③日常診察における適切な気管支喘息患者の管理法
  - ④血液疾患の検査値のみかた
  - ⑤内分泌・代謝疾患の検査値のみかた
- 2) 保健関係
  - ①地域における感染症対策（新興・再興感染症の理解、インフルエンザ・パンデミック対策を含む）
  - ②生活習慣とその是正の指導（禁煙対策を含む）
  - ③地域におけるうつ病と自殺予防への対策
- 3) 福祉関係
  - ①寝たきり症候群の対策
  - ②障害者福祉について
- 4) 研修総括
  - ①地域医療における医師の役割について（個人の望む生き方への援助を含む）
  - ②医の倫理について（個人情報保護への対応を含む）

## D、地域づくりへの提言（研究課題）

当診療所の地域医療研修の目標は（1）前半の地域医療の実際の学習（2）後半の地域づくりへの提言の研究を柱としている。

地域医療は、その各地域の自然や社会、歴史や文化、住民の現実の生活と深くかかわっており、地域や住民の個性を重視したものでなければならない。従って（2）においては、現在の地域における諸問題（危機管理や安全対策を含む）に対する一定のテーマを課題として、健康、医学面から研究し、関連施設への出張も含めて実績として残る成果が得られるよう指導する。

## 4 久慈市国民健康保険山形診療所の臨床研修プログラム

### 研修の目標と実践計画

- 1、Common Diseaseの診断および治療～プライマリ・ケアの実践
- 2、慢性疾患の外来管理～複数の疾患に対する全人的医療
- 3、外来での救急疾患への対応
- 4、適切な患者紹介による病診連携
- 5、往診、在宅医療
- 6、外来検査、外来手術の基本手技
- 7、良好な医師・患者関係の構築
- 8、薬剤管理の方法
- 9、医療経営の理解
- 10、健康づくり、健康診断、各種検診などの保健事業～小児予防接種の経験、検診個人票の作成
- 11、介護保険制度と介護保険サービス
- 12、保健、医療、福祉の連携





## 4 国民健康保険田野畑村診療所での臨床研修

### 地域包括医療・ケアシステム（医療・福祉）の理解

#### ● 目標

包括医療とは治療（キュア）のみならず、在宅ケア、リハビリテーション、福祉・介護サービスのすべてを包括するもので、生活・ノーマライゼーションを視野に入れた全人的医療と定義される。その中で自らの医学知識・技術がどのように還元されるかを体得し、プライマリ・ケアを実践する上でのバランスのとれた感性を養うことを目指す。

#### ● 国保田野畑村診療所ならびに関連施設での研修の特徴

県北部沿岸という医療事情には決して恵まれていない状況のなかでも、早くから地域包括医療・ケアシステムの構築を目指し、住民の自立を目標として掲げてきた。平成16年度から国保総合保健施設の開設され、上記の地域包括医療・ケアシステムが本格的にスタートしている。同一敷地内に各セクションが集合しており、上記の研修目標を達成出来るよう効率良いプログラムの設定が可能で、スタッフの協力も得られやすい（保健・福祉センター長は村在住15年の歯科医。保健福祉領域にも精通しており、研修医の良き相談相手になると思われる。診療所事務長は保健師出身で、現場一筋32年の実力）。

#### ● 研修可能な項目

##### 特定の医療現場の経験（約1ヶ月コース）

- 1) 広い年齢層にわたるcommon diseaseの理解。  
電子カルテ操作  
救急医療（簡単なもの）
- 2) 予防医学と地域保健の理解  
生活習慣病対策（生活・栄養指導、糖尿病教室、成人肥満対策、アルコールの弊害についての講演）  
予防接種の実施、乳幼児健診  
学校健診、学校保健活動（小児肥満対策、性教育）
- 3) 医療制度、診療所運営の基礎的理解  
社会保険制度の理解  
医療費の理解（レセプト請求の実際）  
診療所の役割（機能分担）、病診連携の理解（県立久慈病院・県立宮古病院・済生会岩泉病院との関わり）
- 4) 介護保険制度の理解  
ケア・カンファランスへの参加  
介護保険事業の体験  
主治医意見書  
認定審査会
- 5) 在宅医療（訪問診療・訪問看護）  
その他：関連施設看護師への基礎医学レクチャー（月1回）

## 医療器機

電子カルテシステム（富士通ドクター・ノート）

心臓・腹部超音波検査器機（パワードップラー搭載）

単純レントゲン・透視検査器機

心電図検査

ホルター心電図（24時間心電計）

24時間血圧計

血液検査（一般）迅速

血液ガス測定器

ケア・ネットTV/介護福祉専門チャンネルTV

遠隔画像転送システム

4週間プログラム（国民健康保険田野畑村診療所）

第1週	午前	午後		夕方	その他
月	オリエンテーション	訪問診療	外来診療・ 症例カン ファランス		レセプト作 成・点検の 実際（電算 システムの 理解）
火	外来診療（電子カル テ操作・臨床検査の 実施・超音波検査の 実施・調剤・服薬指 導）	保険診療 ミニレクチャー			
水		健康教室（肥満対策事業）			
木		予防接種	外来診療・ 症例カン ファランス	看護師レクチャー	
金		訪問看護・ 老健回診			
第2週	午前	午後		夕方	その他
月	外来診療（電子カル テ操作・臨床検査の 実施・超音波検査の 実施・調剤・服薬指 導）	訪問診療	外来診療・ 症例カン ファランス		
火		乳幼児健診			
水		健康教室（糖尿病・生活習慣 病）		ケア・カンファランス	
木		予防接種	外来診療		
金		C型肝炎特殊外来見学（生 活・栄養指導）			
第3週	午前	午後		夕方	その他
月	介護保険講義	訪問看護ステーションの運営 と講義			主治医意見 書の作成
火	デイ・サービス	学校保健	産業医活動 の実際		
水	ホームヘルプ・サー ビス	健康教室（生活指導）			
木	訪問看護	予防接種	外来診療		
金	保健事業への参加	認定審査会			
第4週	午前	午後		夕方	その他
月	外来診療（電子カル テ操作・臨床検査の 実施・超音波検査の 実施・調剤・服薬指 導）	機能訓練事業	外来診療・ 症例カン ファランス		
火		訪問診療			
水		運動療法・パワーリハビリ テーション		ケア・カンファランス	
木		予防接種	外来診療		
金		C型肝炎特殊外来見学（生 活・栄養指導）			

## 6 岩手県赤十字血液センターの臨床研修プログラム

受入れ可能診療科名	献血受入のため 固定施設及び移動献血車での研修
指導責任者	指導医 中居 賢 司
研修プログラム	1 献血の種類 2 採決基準 3 献血手順・ワークフロー 4 献血者へのインフォームドコンセント 5 検診の進め方と留意事項 6 採血副作用と事故への対応 7 その他

## 血液製剤の総合的な安全確保

- 献血者の安全確保
- 輸血後感染症をいかに減少させるか
- 輸血医療の安全性確保

血液センターは2003年7月に施行された新血液法の基本理念にのっとり研修を行います。研修医諸君が献血者・検診業務に疑問を抱くときは、連絡を頂ければ所長が直ちに返事をいたします。

## 「献血業務」

### △G I O（一般目標）

献血における問診の重要性を認識するため、献血業務にかかわる。

（健康状態の評価）・（供血者が血液によって伝播される疾患にかかっているか）

### △S B O s（行動目標）

1. 献血業務の手順を理解する。
2. 献血における供血者の心理を理解する。
3. バイタルサインをとることができる。
4. 献血業務における問診の重要性を理解し、それに沿った問診ができる。
5. 献血の適応を決定し、供血者に説明ができる。

## 検診医として必要な基本姿勢・態度

- 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮が出来る。
- 他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
- 安全確認の考え方を理解し、実施できる。
- 公費負担を理解し、適切に（検診）診療ができる。
- 診療録にしたがって記載する、診療録をよく見る。
- 検診の対象者は患者さんではありません、ボランティアドナーである。  
検診開始時間を守りましょう。
- 献血者に対して感謝の気持ちで接すること。

# 医師臨床研修指導ガイドライン

岩手県赤十字血液センター

## 1. 研修目標

将来、臨床医療現場を担う臨床研修医の研修の一環として

- (1) 日本の血液事業の仕組みと現状を理解する。
- (2) 献血の推進・献血者募集・採血・検査・製剤・供給の流れを理解する。
- (3) 善意、無償の献血者に接する献血現場での検診教務を通じて、献血の尊さと輸血用血液製剤の大切さを知る事を目標とする。

## 2. 研修及び学習目標

将来、医療現場を担う臨床研修の一環として

- (1) 日本の血液事業の仕組みと現状を理解する。
- (2) スクリーニング検査を初めとする血液の安全確保のための対策を理解する。
- (3) 検診医の役割と献血者への基本姿勢を理解する。
- (4) 輸血関連感染症では、ウインドウ期献血のリスク遷延調査について理解する。
- (5) 採血時の副作用、特に血管迷走神経反射（VVR）についての知識と治療処置を習得する。
- (6) 善意、無償の献血者に接する献血現場での検診業務を通じて、献血の尊さと輸血用血液製剤の大切さを知る。
- (7) 献血の推進・献血者募集・採血・検査・製剤・供給の流れを理解する。

## 3. 研修プログラムの概略

### (1) 基本概略

- 岩手県血液センターは臨床研修病院の協力施設として地域保健医研修の一部を担当する。但し、臨床研修病院との協議を優先する。
- 原則として2年次研修医をあてる。内科、外科、救急のいずれかを終えた研修医を対象とする。

### (2) テキスト

- 血液事業の概要
- 問診マニュアル
- 検診医参考資料
- その他、講義資料（各施設において、スライドなどで講習）

## 5. 臨床研修医のローテーション

### 1年次ローテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A	オリエンテーション	循環器	循環器	整形外科	外科	麻酔	精神	周産期	選択	選択	精神	神内
B	オリエンテーション	消化器	消化器	循環器	循環器	外科	麻酔	整形外科	精神	周産期	選択	選択
C	オリエンテーション	神内	神内	消化器	消化器	循環器	循環器	外科	麻酔	泌尿器科	精神	周産期
D	オリエンテーション	外科	泌尿器科	神内	神内	消化器	消化器	循環器	循環器	麻酔	周産期	精神
E	オリエンテーション	麻酔	外科	泌尿器科	精神	神内	神内	消化器	消化器	循環器	循環器	選択
F	オリエンテーション	脳神経外科	麻酔	外科	選択	精神	周産期	神内	神内	消化器	消化器	循環器
G	オリエンテーション	精神	脳神経外科	麻酔	外科	周産期	選択	選択	選択	神内	神内	消化器
H	オリエンテーション	泌尿器科	精神	周産期	麻酔	選択	外科	選択	選択	選択	選択	選択

### 2年次ローテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A	神内	消化器	消化器	選択	選択	選択	地域	選択	選択	選択	選択	選択
B	地域	神内	神内	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
C	選択	地域	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
D	選択	選択	地域	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
E	周産期	選択	選択	地域	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
F	循環器	選択	選択	選択	地域	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択
G	消化器	消化器	循環器	選択	選択	地域	選択	選択	選択	選択	選択	選択
H	選択	選択	選択	消化器	消化器	循環器	循環器	神内	神内	地域	選択	選択

- ・循環 2 消化 2 神内 2 外科 2 脳外 1 麻酔 2 + 泌尿 1 か整形 1 を選択
- ・救急は外科系診療科で行う。





